

# 2023年12月期 第118期 業績概要

2024年2月13日  
日東精工株式会社  
(証券コード 東証プライム:5957)



2023年3月  
健康経営銘柄  
3年連続選定

2022年3月  
なでしこ銘柄  
初選定

単位：百万円／％	22年12月期		23年12月期		前年同期比		23年12月期 業績予想比（2023年11月14日）		
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	予想金額	増減額	増減率
売上高	44,021	100.0	44,744	100.0	722	1.6	45,000	△ 255	△ 0.6
売上総利益	10,377	23.6	10,183	22.8	△ 194	△ 1.9			
販売管理費	7,445	16.9	7,568	16.9	123	1.7			
営業利益	2,931	6.7	2,614	5.8	△ 317	△ 10.8	2,600	14	0.5
経常利益	3,235	7.3	2,835	6.3	△ 399	△ 12.4	2,800	35	1.3
税金等調整前当期純利益	3,194	7.3	2,830	6.3	△ 363	△ 11.4			
親会社株主に帰属する当期純利益	1,828	4.2	1,734	3.9	△ 94	△ 5.1	1,700	34	2.0
一株当たり当期純利益（円）	49.50		46.95				46.01		

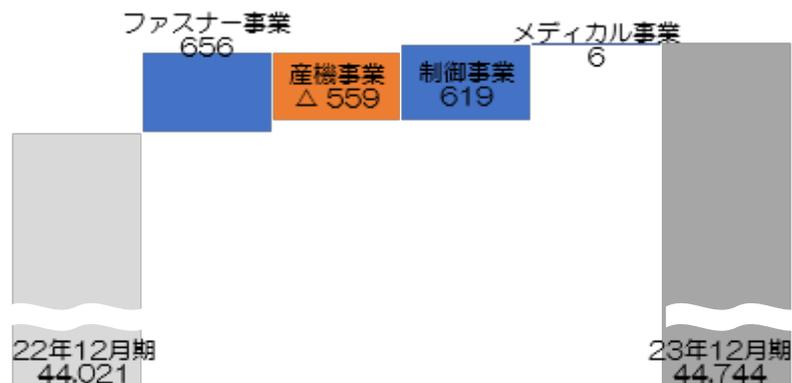
- 2022年4月に連結子会社化したケーエム精工、ピニング、2023年4月にドイツに設立した日東精工アナリテックヨーロッパが業績に貢献。加えて、自動車関連や住宅・建築業界向けのファスナー製品、化学・薬品業界向けの分析機器などの制御製品が好調に推移し、前年同期比1.6%の増収。
- 利益面では、資源・原材料高騰を受け販売価格の改定や製販一体となったコストダウンを進めたが、米国・中国経済の減速による受注低迷の影響が大きく、前年同期比10.8%の減益。
- 海外は、米国・中国経済の減速に加え、東南アジアでも顧客の在庫調整が長期化し、売上高はやや減少。

# セグメント別売上高・営業利益（連結）

単位：百万円／％		22年12月期	23年12月期	前年同期比	
				増減額	増減率
ファスナー事業	売上高	32,199	32,855	656	2.0
	営業利益	1,648	1,625	△ 22	△ 1.4
	利益率	5.1	4.9		
産機事業	売上高	6,515	5,955	△ 559	△ 8.6
	営業利益	1,227	822	△ 405	△ 33.0
	利益率	18.8	13.8		
制御事業	売上高	5,296	5,915	619	11.7
	営業利益	157	278	120	76.4
	利益率	3.0	4.7		
メディカル事業	売上高	10	17	6	64.1
	営業利益	△ 102	△ 112	△ 10	—
	利益率	△ 976.2	△ 654.4		

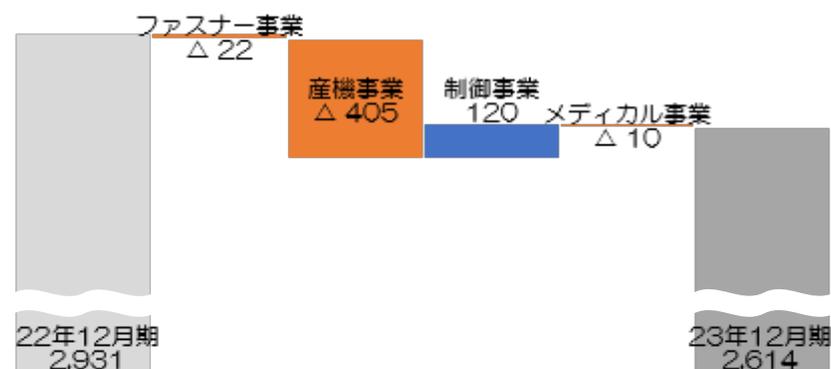
(百万円)

セグメント別売上高増減



(百万円)

セグメント別営業利益増減



単位：百万円／%	22年	23年	前年同期比	
	12月期	12月期	金額	増減率
売上高	32,199	32,855	656	2.0
自動車	11,417	12,955	1,538	13.5
住宅・建築	6,926	7,466	540	7.8
電機・電子部品	5,191	4,588	△ 602	△ 11.6
雑貨	2,775	2,140	△ 635	△ 22.9
IT・情報機器	1,603	1,254	△ 348	△ 21.7
精密機器	1,142	1,098	△ 44	△ 3.9
医療	323	289	△ 34	△ 10.6
その他	2,817	3,061	244	8.7
営業利益	1,648	1,625	△ 22	△ 1.4

- 売上高は、主力の自動車に加え、北米向けの住宅・建築分野が堅調に推移し、増収。
- 営業利益は、製造工場の集約による効率化・原価低減を推進したものの、エネルギー・副資材関係上昇分の価格転嫁の交渉が難航し減益。

## ◆自動車

- コロナ禍における顧客の在庫調整の余波はあるものの、EV・ECU・電池・センサ・電動化向け「ギザタイト」「アルミタイト」「座金組み込みねじ」が回復。「CPグリップ」「精密プレス製品」、軽量化・薄板化に貢献する新製品「JOISTUD(ジョイスタッド)」の需要が堅調に推移。

## ◆住宅・建築

- 建築向け締結部品「ドリルねじ」「ナット」などの需要が好調に推移。また、新製品「シェアクロス」の市場投入で今後の伸長に期待。

## ◆電機・電子部品

- 欧州、中国での消費低迷により低調に推移。

## ◆雑貨

- コロナ禍による巣ごもり需要で盛り上がったゲーム機市場は落ち着き、精密ねじの受注が減少。

## ◆IT・情報機器

- 欧米、中国での情報機器の消費低迷を受け、生産の中心である中国、東南アジアでの生産が停滞。

## ◆その他

- 遊技機業界でデジタル化に伴い受注増。

単位：百万円／%	22年	23年	前年同期比	
	12月期	12月期	金額	増減率
売上高	6,515	5,955	△ 559	△ 8.6
自動車	3,889	3,410	△ 479	△ 12.3
電機・電子部品	789	1,026	237	30.0
遊技機	64	212	148	230.3
エネルギー関連	327	199	△ 127	△ 38.8
住宅・建築	134	180	45	33.4
IT・情報機器	147	178	30	20.4
その他	1,163	748	△ 415	△ 35.7
営業利益	1,227	822	△ 405	△ 33.0

- 売上高は、電動化需要、人手不足を背景にした自動化機運が高まるも、世界経済の不透明感の高まりが設備投資意欲を押し下げており、特に米国・中国で受注が低迷し、減収。
- 営業利益は、標準機の販売価格の転嫁は進んだものの、特殊機と米国の受注減の影響で減益。

## ◆自動車

- 国内ではEV関連のねじ締め機の受注、海外ではCASE関連の設備が活発であるものの、米国・中国で設備投資意欲が落ち込み低調に推移。

## ◆電機・電子部品

- 基板表面処理装置の大型案件獲得など、前年同期比大幅増。

## ◆遊技機

- 新機種生産に伴う「組立ライン」「ねじロボ」など、大型受注を受けて売上高は大幅増。

## ◆エネルギー

- ガスコンロ・ガスメーター関連の設備受注があったものの、全体としては低調に推移。

## ◆住宅・建築

- 住宅関連の組立ライン新設・増設に伴う受注があり堅調に推移。

## ◆IT・情報機器

- スマホ関連の特需により堅調に推移。

## ◆その他

- 産業用ロボット市場の輸出が減少傾向にあり、関連する設備受注の反動を受け、売上減。

単位：百万円／%	22年	23年	前年同期比	
	12月期	12月期	金額	増減率
売上高	5,296	5,915	619	11.7
化学・薬品	1,183	1,412	229	19.4
エネルギー関連	853	900	47	5.6
住宅・建築	548	438	△ 109	△ 20.0
電機・電子部品	304	414	110	36.2
自動車	367	411	44	12.0
造船	284	306	22	7.8
環境	272	268	△ 4	△ 1.6
医療	133	181	47	35.7
その他	1,349	1,580	231	17.2
営業利益	157	278	120	76.4

- 流量計の需要および欧州新拠点で分析機器の販売が好調に推移し増収増益。
- 引き続き加工部品の内製化などのコスト低減や販売価格の改定を進める。

## ◆化学・薬品

- 半導体製造設備関係の流量計が好調に推移。また、コロナ後の需要回復、部品不足解消に伴い分析装置の販売が増加。

## ◆エネルギー

- コロナ後の需要回復、部品不足解消に伴い分析装置の販売が増加。

## ◆住宅・建築

- 地盤調査機「ジオカルテⅣ」は、戸建て住宅着工件数が伸びを欠く影響で低調に推移。

## ◆電機・電子機器

- 分析計測機器の需要が好調に推移。

## ◆自動車

- 第3四半期までは検査機の需要が低迷していたが、第4四半期に好転。電池材料など抵抗率計の需要もあり増加。

## ◆造船

- CO2排出規制に係る国際制度への移行により、質量流量計への置き換えなどの需要が国内外ともに堅調に推移。

## ◆医療

- 分析計測機器の需要が堅調に推移。

単位：百万円／％	22年 12月期	23年 12月期	前年同期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	10	17	6	64.1
医療	10	17	6	64.1
その他	—	—	—	—
営業利益	△ 102	△ 112	△ 10	—

## ◆医療

- 医療用照明器「フリーレッド」は、コロナ禍を境に顧客要望の高いコスト低減を図りつつ、市場ニーズの収集と提案活動を推進するも、本採用には至らず。今後も販社を通じたPR強化にも注力し、本採用を目指す。
- 「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム」は、2023年6月に国内特許取得。一貫製造設備の整備、臨床試験に向けた試料の製作、性能試験を進めるとともに、医療用製品販売に向けた許認可取得の準備、品質管理体制の構築など、上市に向けた取り組みを継続中。また、並行して本素材を適用可能な部品の情報収集を進める。
- 当社既存技術を活かした新たなプロジェクトを始動し継続中。医療機器の拡充を図る。

## 2023年12月期（連結）貸借対照表

単位：百万円／％	22年12月期		23年12月期		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
<b>資産の部</b>						
流動資産合計	34,342	64.3	33,822	63.4	△ 519	△ 1.5
現金及び預金	9,098	17.0	8,849	16.6	△ 248	△ 2.7
受取手形・電子記録債権/売掛金	13,986	26.2	12,794	24.0	△ 1,192	△ 8.5
棚卸資産	10,081	18.9	11,023	20.7	942	9.3
固定資産合計	19,065	35.7	19,521	36.6	455	2.4
有形固定資産	14,085	26.4	14,129	26.5	44	0.3
無形固定資産	1,146	2.1	999	1.9	△ 146	△ 12.8
投資その他の資産	3,833	7.2	4,391	8.2	558	14.6
<b>資産合計</b>	<b>53,408</b>	<b>100.0</b>	<b>53,344</b>	<b>100.0</b>	<b>△ 63</b>	<b>△ 0.1</b>
<b>負債の部</b>						
流動負債合計	14,601	27.3	12,901	24.2	△ 1,700	△ 11.6
支払手形・電子記録債務/買掛金	9,015	16.9	8,615	16.2	△ 399	△ 4.4
短期借入金（一年以内返済の 長期借入・社債含む）	2,436	5.6	1,574	3.0	△ 862	△ 35.4
固定負債合計	4,304	8.1	4,040	7.6	△ 264	△ 6.1
<b>負債合計</b>	<b>18,906</b>	<b>35.4</b>	<b>16,941</b>	<b>31.8</b>	<b>△ 1,964</b>	<b>△ 10.4</b>
<b>純資産の部</b>						
資本金	3,522	6.6	3,522	6.6	—	—
資本・利益剰余金	28,208	52.8	29,400	55.1	1,191	4.2
自己株式	△ 1,246	△ 2.3	△ 1,562	△ 2.9	△ 315	—
<b>純資産合計</b>	<b>34,501</b>	<b>64.6</b>	<b>36,402</b>	<b>68.2</b>	<b>1,900</b>	<b>5.5</b>

単位：百万円／％	22年12月期	23年12月期		
	金額	金額	増減額	増減率
営業活動によるCF ※①	999	3,151	2,152	215.4
投資活動によるCF ※②	△ 1,987	△ 1,187	799	△ 40.2
（フリーCF） ※①+②	△ 987	1,963	2,951	△ 298.8
財務活動によるCF	△ 1,301	△ 2,074	△ 773	59.4
現金及び現金同等物の増減額	△ 2,129	△ 278	1,850	△ 86.9
現金及び現金同等物の期首残高	10,435	8,305	△ 2,129	△ 20.4
現金及び現金同等物の期末残高	8,305	8,027	△ 278	△ 3.4

## 2. 2024年12月期 第119期業績予想

本資料に掲載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によりこの見通しと異なる場合があります。

単位：百万円／%	23年12月期		24年12月期（予想）		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	44,744	100.0	48,200	100.0	3,455	7.7
営業利益	2,614	5.8	3,300	6.8	685	26.2
経常利益	2,835	6.3	3,500	7.3	664	23.4
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,734	3.9	2,100	4.4	365	21.1
一株当たり当期純利益（円）	46.95		57.46			

- 今期前半は、引き続き在庫調整や主要国の経済成長の鈍化の影響を受け低調が予想されるものの、在庫過多の解消が進みつつあり、設備投資意欲も徐々に高まっており、今期後半からはグループ全体での回復が予想される。
- **ファスナー事業**は、自動車関連を中心に引き続き低調が続いているが、後半に向けて徐々に回復が予想される。海外市場のエリア拡大や、AKROSEなどの自社技術による高付加価値製品の需要拡大基調に確実に応えていく。また、原価高騰による収益性の悪化を改善すべく、販売価格の転嫁に加え革新的な製造コストの削減に取り組む。
- **産機事業**は、国内、海外ともに設備投資の回復は緩やかと予想されるも、自動車業界では設備投資意欲の高いCASE事業向けの案件に対応していくほか、主力製品のねじ締め機については、環境対応や形状の複雑化に対応できる新製品を投入し、他社との差別化を図りながら、自動車業界だけでなく幅広い業種と海外市場の拡大に努める。
- **制御事業**は、流量計は化学・薬品、造船業界の設備投資による更新需要増が継続し、分析機器関連ではEV化を背景とする自動車業界での需要が増える見込み。検査機関連の新製品開発に努め、省人化や自動化のニーズに応えていく。
- **メディカル事業**は、「医療用生体内溶解性高純度マグネシウムインプラント」の製造設備の整備並びに非臨床試験、臨床試験に取り組むとともに、医療機器製品の拡販や新製品の開発に努める。

# セグメント別売上高・営業利益予想（連結）

単位：百万円／％		23年12月期	24年12月期 (予想)	前期比	
				増減額	増減率
ファスナー事業	売上高	32,855	35,100	2,244	6.8
	営業利益	1,625	1,900	274	16.9
	利益率	4.9	5.4		
産機事業	売上高	5,955	6,850	894	15.0
	営業利益	822	1,150	327	39.9
	利益率	13.8	16.8		
制御事業	売上高	5,915	6,200	284	4.8
	営業利益	278	400	121	43.7
	利益率	4.7	6.5		
メディカル事業	売上高	17	50	32	191.4
	営業利益	△ 112	△ 150	△ 37	—
	利益率	△ 654.4	△ 300.0		

(百万円)

セグメント別売上高増減

(百万円)

セグメント別営業利益増減

